

JOSS2021

CHORUSフォーラム – 研究ワークフローにおけるFAIRデータ

(ファンディングから論文出版まで)

JSTにおけるファンディングデータ管理フロー： 効率、正確さ、ルール準拠

2021年6月18日

中島律子

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)

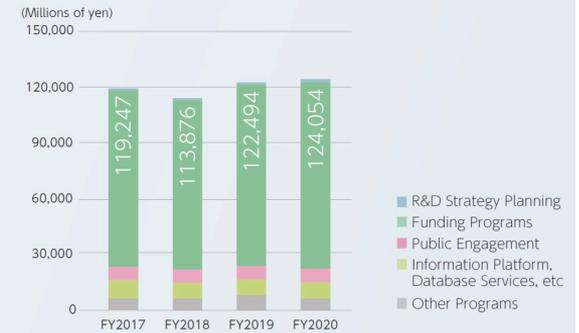
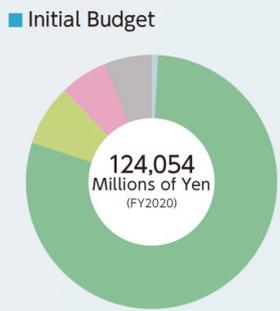
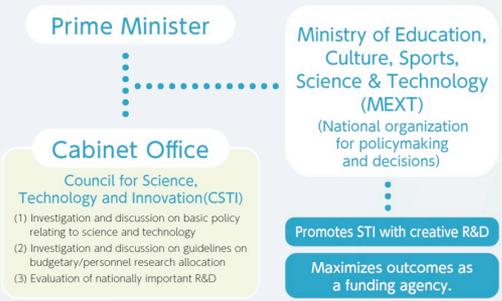
情報基盤事業部長



科学技術振興機構

JSTについて

4th Mid-to-Long term Plan (FY2017 - 2021)



Funding Programs 81%

As a network-based research institute, JST promotes research and development leading to innovation and address economic & social issues throughout the implementation of research results and International joint researches.

- Strategic Basic Research
- International Collaborations
- Industry-Academia Collaboration and Technology Transfer

Public Engagement 6%

Promoting dialogue with various stakeholders toward co-creation of a future society. JST also fosters next generations talents in the fields of S&T as well as human resources who can contribute to S&T innovation.

- Promotion of "Science in/for Society"
- Fostering the Next Generation Human Resources
- Miraikan

R&D Strategy Planning 1%

Throughout dialogue with stakeholders and data analysis, JST formulates R&D strategies toward the future.

Information Platform and Database Services, etc. 7%

Other Programs 5%

JSTオープンサイエンス方針

- オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針（2017年4月1日）

- オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針
 - I. 論文へのオープンアクセス
 - 原則としてオープンアクセス化を義務とする.
 - II. 研究データの取り扱い
 - データ管理計画の作成
 - 研究データの取り扱いについて定めたデータ管理計画の作成を義務とする.
 - 研究データの保存・管理・およびアクセスの確保
 - 論文根拠データの公開を推奨する.
- 「オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針」運用ガイドライン

オープンサイエンスに関する研究者への情報提供

8. 研究成果の取扱いについて ～論文オープンアクセス・データマネジメント～

内閣府の「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」により、「我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について」が平成27年3月に公表され、オープンサイエンスに関する基本姿勢・基本方針がとりまとめられ、各省庁、資金配分機関、大学・研究機関等がオープンサイエンスの実施方針及び実施計画を策定することが明記されました。さらに、平成28年1月に閣議決定された「第5期科学技術基本計画」において、公的資金による研究成果については、その利活用を可能な限り拡大することを、我が国のオープンサイエンス推進の基本姿勢とすることが明記されました。

このような動向を踏まえ、JSTではオープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関する基本方針を平成29年4月に発表しました。本方針では、研究成果論文のオープンアクセス化や研究データの保存・管理及び公開について、基本的な考え方を定めています。

ERATOの研究による成果(論文)のオープンアクセス化をお願いします。

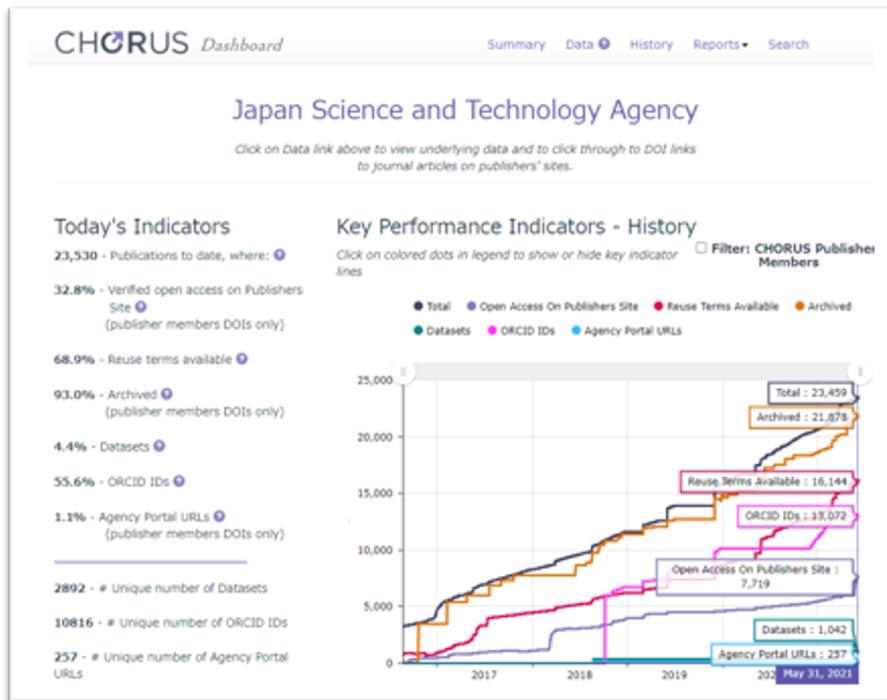
ERATOで得られた研究成果(論文)について、機関リポジトリやオープンアクセスを前提とした出版物などを通じて原則として公開していただきます。

データマネジメントプランの作成・実施をお願いします。

平成28年度以降に新たに採択された研究総括は、成果として生じる研究データの保存・管理、公開・非公開等に関する方針や計画を記載したデータマネジメントプランを作成し、研究計画書と併せて、JSTに提出していただきます。また、本計画に基づいて研究データの保存・管理・公開を実施していただきます。詳しくは、以下をご参照ください。

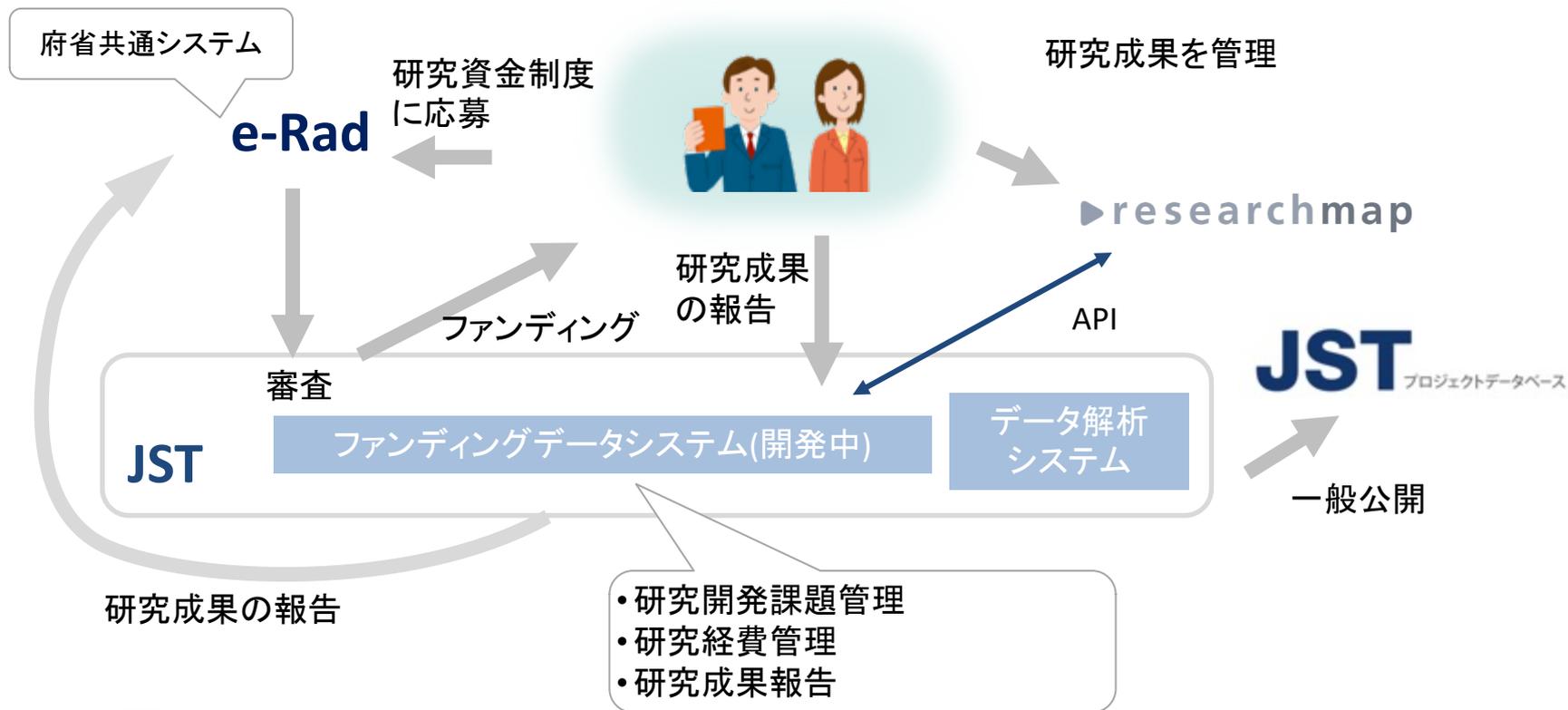
○オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針
https://www.jst.go.jp/pr/intro/openscience/policy_openscience.pdf

○オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針運用ガイドライン
https://www.jst.go.jp/pr/intro/openscience/guideline_openscience.pdf



研究者へのガイドライン (例: ERATOガイド)

JSTにおけるファンディング情報のワークフロー (開発中)



研究者総覧

研究者情報

研究成果

研究開発課題
(ファンディング)

<https://researchmap.jp/>

researchmap

国内最大級の
研究者総覧データベース



連絡先 お問い合わせフォーム：<https://researchmap.jp/public/inquiry/>

<https://researchmap.jp/>

researchmapは、研究者による業績管理及び発信を支援するデータベース型研究者総覧です。国内の約31万人の研究者が登録しています。プロフィール、執筆論文等の研究業績情報の閲覧機能、研究者同士のコミュニケーションの促進、産学連携や共同研究の候補を見つけるためのコミュニティ機能等を提供し研究活動を総合的に支援します。



ようこそ！
新しくなった researchmap へ！

業績管理をもっと簡単に、もっと快適に。



掲載研究者数
約31万件



アクセス数
約1,762万件



収録業績総数
約2,463万件



利用機関数
241 機関



連携データベース数
10件

JSTプロジェクトデータベース

JST プロジェクトデータベース

COVID-19

検索

絞り込み

制度・事業

- J-RAPID 12
- SICORP 9
- CREST 4
- FIRSTX(社会技術研究奨励)
- 研究成果高度化支援プログラム(A-STEP) 2
- 産業加速型 1
- 大学発新産業創出プログラム(START) 1

研究課題種別

- 研究課題 30
- 研究領域 2

研究期間(年度)



検索結果: 32件 / COVID-19

表示件数: 20

1. 動 ディープラーニングを用いた都市モビリティのピーク予測 (DARUMA)

国際的な科学技術共同研究などの推進 / 国際科学技術共同研究推進事業 / SICORP / CONCERT-Japan

研究代表者 シュムツカウ ヤンディヤク 京都大学、大学院工学研究科、准教授

研究期間(年度) 2021 - 2023

概要
本研究は、COVID-19が人々のモビリティパターンに与えた影響について分析するものである。具体的には、モビリティデータ、ソーシャルメディアデータ、製品価格データをインプットデータとして、ディープラーニングを行う。これらのデータを用いて、都市交通パターンシミュレーションを行うことで、渋滞やモビリティパターンの変化を明らかにする。また、ケーススタディとして、マドリッド、プザベスト、京都を対象とし、マドリッドでは、交通データ、プザベストでは道路交通データ、京都ではGPSデータ、携帯電話の集計データ、サブライチオンデータを統合したデータを使用する予定である。本研究で得られた知見は、ポストコロナにおいても適用可能で、レジリエントな都市政策、交通政策の立案に貢献することが期待される。

研究領域 レジリエント、安全、セキュアな社会のためのICT

2. 動 地方都市の活力・豊穡性・適応性の実証に関する評価 (3VRUT)

研究課題

国際的な科学技術共同研究などの推進 / 国際科学技術共同研究推進事業 / SICORP / CONCERT-Japan(SICORP)

研究代表者 内井 研 一般財団法人リモートセンシング技術センター、研究開発部、ソリューション事業第二部

研究期間(年度) 2021 - 2023

概要
これまでのレジリエンスの評価や指標は、現地の集約のデータを捉えることが難しく、空間的な生物物理的・社会的データセットを十分に組み合わせることができていない。本研究は、先進国の地方都市におけるサイバースペースと物理的空間の接点に存在するリスクと脆弱性を評価、定量化、分類するための手法を開発することを目的とする。この中で、定量的なデータの取得と実証、形質学的分析にリモートセンシングを用い、社会経済学的研究から地理統計学を導出する。対象はドイツ、スペイン、ポーランド、日本における過疎化と都市移動に直面しているケーススタディを通じて、脆弱しない社会行動を持つ国ごとに2つの異なるシナリオを検討する。あわせて、2008年のリーマンショック、2015年から2016年の欧州難民危機、2020年のCOVID-19によるソーシャルディスタンスの影響を考察する。

JSTプロジェクトデータベースは、JSTが競争的資金制度等により推進する研究課題に関する情報を一元的に検索・閲覧できるサービス。

2万2,000件以上の研究課題、5,900報以上の成果報告書を検索することが可能。

J-STAGE – 日本の学協会向けジャーナルプラットフォーム



www.jstage.jst.go.jp

- ◆日本の学協会向け電子ジャーナルプラットフォームとして、JSTが1999年に運用を開始
- ◆事業目的
 - ◆日本の学協会誌の電子出版化を促進
 - ◆電子出版物のインターネットを通じた普及及びオープンアクセスの促進
- ◆掲載内容(2021年6月3日時点)
 - ジャーナル数 : 3,305
 - 記事数 : 5,237,144 (プロシーディング等含む)
- ◆約90%の掲載誌が閲覧無料

研究データと論文をリンクさせる仕組み

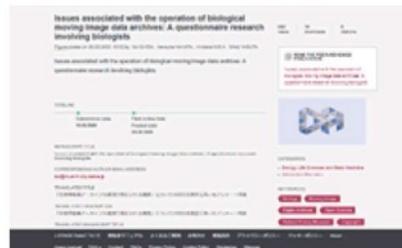
J-STAGE Data 研究関連データを全世界へ発信



連絡先 Email : data-contact@jstage.jst.go.jp

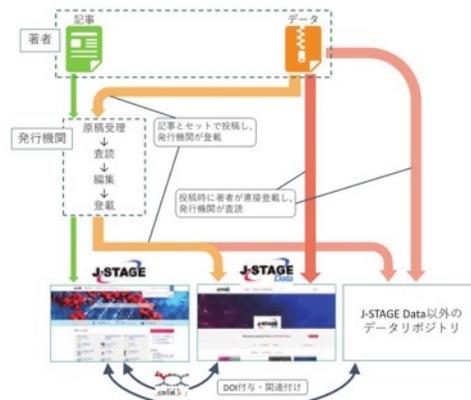
<https://jstagedata.jst.go.jp/>

J-STAGE Dataは、J-STAGEの掲載記事に関連するデータを公開するデータリポジトリです。現在は試行運用段階で、パイロットジャーナルのデータのみ掲載・公開されています。(2020年10月時点)



データを身近に活用できる様々な機能

- DOI自動付与により掲載したデータを全世界に流通
- データを掲載するJ-STAGEの論文にワンクリックでアクセス
- データは個々に定められた条件下で二次利用が可能



- J-STAGE掲載論文の根拠データ公開のためのリポジトリ
- 2020年3月運用開始
- オープンアクセス
- DOI登録
- 6誌・197データセットを公開
(2021年5月31日時点)



利用状況

In the last year ▼ J-STAGE Data had:

👁️ 閲覧数 : 21,071

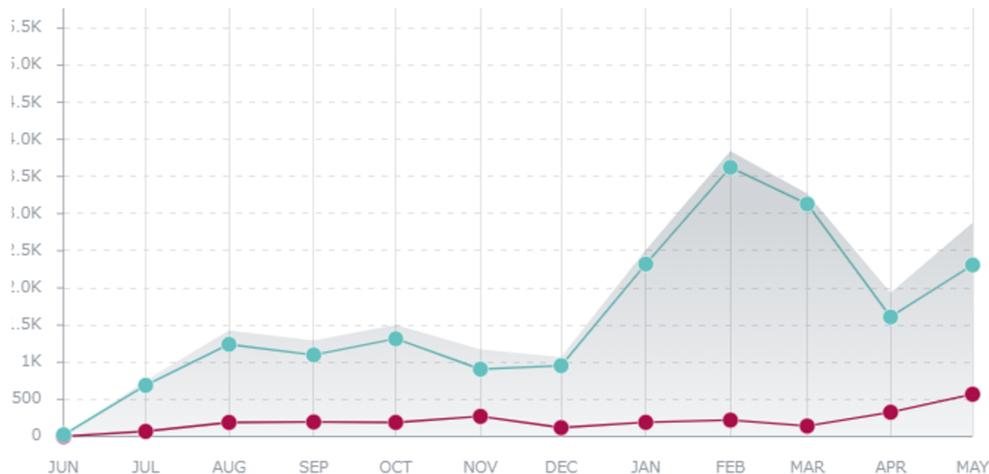
↓ ダウンロード数 : 2,917

see by: Monthly view ▼

Views

Downloads

Total



...利用の51%がアメリカ, 41%が日本, 3%がオランダ...

